

地方経済情報 Weekly No.270

観光資源としての農業

1. 農業体験への関心の高まり

コロナ禍で、密にならない余暇の過ごし方として農業体験などの自然に親しむ機会の価値がより重視されるようになってきています。2019年に農林水産省が20～69歳の男女4,000人を対象に行った調査では「農業体験に参加したい」という人の割合が全国で8割を超えており、農業体験に関心を持つ人が多いことが分かります(図表1)。

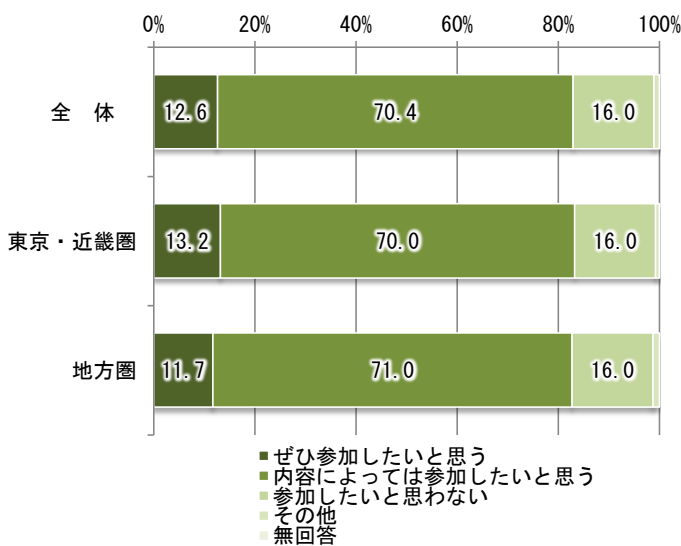
2. 農業を「作業」から「体験」に

また、2020年10月に東京都が18歳以上の都内在住者500人を対象に行った調査でも、新型コロナウイルス感染拡大に伴って「公園や緑地の重要性を感じるようになった」人が6割、「家庭菜園や市民農園で野菜を育てることに興味を持つようになった」という人の割合が2割を超えています(図表2)。これまで「農作業」として行っていたものを「農業体験」として売り出すことでビジネスに結び付いた事例もあります。例えば、果実の収穫や剪定は農家の方にとっては農作業ですが、都市部の人にとって普段経験できない付加価値の高い体験です。

3. 「農業」×「観光」で新たな価値を創造

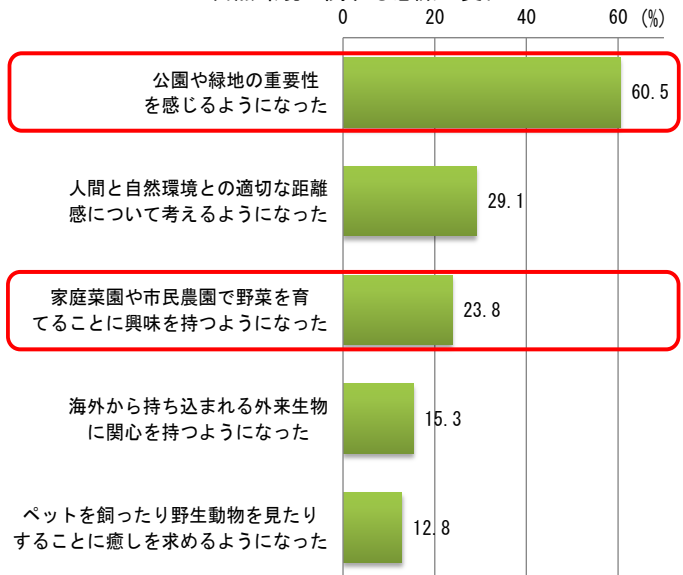
上記の事例のように、農業を体験として売り出し、観光と結びつけることで新たな価値を提供することも可能です。農業体験は観光として思い出を提供できるだけでなく、農業技術を伝えることや、コト消費需要の取り込みにもつながります。コロナ禍をきっかけに観光のあり方も大きく変化しました。農業と観光を掛け合わせることで、地域資源の活性化が期待されます。

[図表1] 農林漁業体験参加への関心



資料：農林水産省
食生活及び農林漁業体験に関する調査(令和2年3月)

[図表2] 新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う
自然環境に関する意識の変化



資料：東京都生活文化局 令和2年度第4回
インターネット都政モニターアンケート「生物多様性について」